

石隈 利紀 (いしくま としり) : 応用心理学部 臨床心理学科)

主な担当授業 : 心理学概説、心理学英語基礎、カウンセリング心理学

専門 : 学校心理学、多文化間心理学

寅さん・ハマちゃん・右京さんの「つながる力」

●寅さん・・・100人に100の顔でつながる

「ナンバーワンよりオンリーワン」という言葉を私は好きです。でも一人ひとり、心も体もまったく違うのですから、オンリーワンになるよう特別にがんばらなくていいのです。大事なことは、一人ひとりがどうつながるかです。つまり「人とつながるオンリーワン」です。まず映画『男はつらいよ』の「フーテンの寅さん」(渥美清さん)です。ご存じですか。寅さんは、テキヤ(露天商)稼業で全国を旅しながら、多くの人に出会います。寅さんは、出会う相手の一人ひとりの心や文化を理解し、相手の世界に染まろうとします。寅さんは、「100人に対して100の顔をもつ」人なのです。相手の気持ちや願いを聴き、共感します。寅さんは、肩書きもお金もありませんが、相手のよい聴き手になるための条件(心と時間の余裕)がたっぷりあります。そして相手の世界を理解する想像力も(ときどきはずれますが)豊かです。

●ハマちゃん・・・100人に一つの顔でつながる

漫画・映画『釣りバカ日誌』の「ハマちゃん」(西田敏行さん)です。ハマちゃんは、つりが大好き、家族を愛し、仕事はマイペースというワーク・ライフバランスをもっています。ハマちゃんは、「100人に対して一つの顔で接する人」なのです。ハマちゃんは、文化や価値観が違う人と対等に、タメ口で関わる力をもっています。ハマちゃんは、相手が誰であろうと、相手に合わせて自分を変えるということはありませんが、同時に相手を無理やり自分の望む方向に変えようともしません。相手を、異なる文化をもっている人として尊重するのです。「みんな違って、みんないい」という考えを行動で示したいですね。

●右京さん・・・多様なやり方でつながる

続いて、テレビドラマ『相棒』の「右京さん」(水谷豊さん)です。右京さんは、自分の生き方をしっかりともち、多様な人と相棒になる力をもっています。右京さんは、「100人に対して多様なつながりがもてる」人です。警視庁特命係の右京さんは、正義を守ることを人生の核とする人です。特命係の「相棒」や鑑識係、警察庁の幹部、ときには被疑者とも「チーム」を組み、仲間の特技を活かしながら、難しい事件の謎を解いていくのです。チームの仲間から認められている、右京さんの問題解決能力は、相手や周りの環境を観察力にありそうです。人とつながるには、寅さんのように相手に染まる努力をし、ハマちゃんのように相手とため口を楽しみ、右京さんのように相手の特技を活かせるとういですね。(興味がある人はYouTubeでTEDの講演『寅さん・ハマちゃん・右京さん』を見て下さい！)

